

新春を寿ぎ 福と笑いをはこぶ

第2回 万歳サミット 鈴鹿

正月に家々を回って、新春を寿ぎ、家内の安全・繁栄を願う日本古来の祝福芸・万歳は、のどかな時代の風物詩でもありました。

万歳は上代中世芸能の一つで、本州から沖縄まで分布し、伝統芸能の祖型として大きな意義もっています。

平安時代の千秋万歳を祖とし、大和万歳、三河万歳、尾張万歳、越前万歳、加賀万歳、瞽女万歳、伊予万歳、伊勢万歳……とそれぞれの居住地名をつけ、土地の文化と風土に育まれ、変遷する時代に対応しながら受け継がれてきました。

しかし、急激な社会変化とともに、祝福芸を生業とする万歳師の姿が街頭から消え、現在は全国的に衰退の道を辿っています。

古典万歳の伝承地では、伝承者の熱意により、後継者難のなか、国・県・市の無形民俗文化財指定や保存会の結成など努力を重ね、万歳の灯をともし続けています。

鈴鹿市では、平成9年に、衰退する万歳の再生と継承を願い企画した『万歳サミット 鈴鹿』は大きな反響を呼び、鈴鹿市民会館を満席にして熱狂的に終了しました。

このたび、鈴鹿市制70周年記念事業として、前回と同様、民衆芸能の研究で知られる小沢昭一氏を迎え、『第2回万歳サミット 鈴鹿』を開催する運びとなりました。

全国から鈴鹿に集結する、貴重な古典万歳をぜひご鑑賞くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

小沢 昭一 (俳優)

昭和4年東京生まれ。昭和27年、早稲田大学卒業。俳優座養成所をへて、昭和26年、俳優座公演で初舞台。以後、新劇と映画・テレビ・ラジオと幅広く活躍し、それぞれの分野で数々の演技賞を受賞。一方、民衆芸能の研究にも力をそそぎ、レコード「日本の放浪芸」シリーズの製作により芸術選奨ほかを受賞。ラジオの「小沢昭一の小沢昭一のこと」は放送開始40年目。舞台は「しゃぼん玉座」を主宰。近年は「唄って語って僕のハーモニカ昭和史」で全国的に長期公演を続けた。現在、日本新劇俳優協会会長、また2004年より明治村村長をつとめる。



伊予万歳

お座敷の祝福芸として伝わった万歳が舞台芸能に発達した。三味線、太鼓、拍子木が軽快なリズムをきざみ、唄に合わせて扇が舞う独特な扇使いが特徴の万歳。

越前万歳

才蔵の持つ小太鼓と変わり帽子に特徴がある。太鼓は摺って叩くので「すり太鼓」といわれる。また、大きい押し絵の変り帽子を被る曲もある。

尾張万歳

今回は、尾張万歳の代表的な舞で、御殿万歳を舞わせていただきます。

瞽女万歳

盲目の女旅芸人・瞽女(ごぜ)の集団に伝えられた「万歳」。三味線を伴奏にした祝福の芸能として人気があった。

安城の三河万歳

萬歳は祝禱です。「五穀豊穡家内安全」を祈り、祝います。今回の災害を乗り越えて祝える状態となるよう、心をこめて祈ります。

加賀万歳

金沢城下を訪れていた越前万歳に、文化・文政のころ、加賀宝生の能役者が能楽的な要素を取り入れたもので、全体的にゆったりとした優雅な万歳である。

伊勢万歳

鼓、三味線、胡弓の楽器を使い、段物を多く取り入れたところに特色がある。話芸を重視し、門付けで磨いた楽しい芸を披露。

